

沿岸定線観測速報 ちば (2005 年 7 月)

発行機関：千葉県水産総合研究センター

概況 (図1・2,表1)

6/29～7/1に房総丸(110ト)で沿岸定線観測を実施した。親潮系水の南下状況を把握するためにK7～K11の5定点を追加して観測した(図1)。7/1の海況は図2のとおり。観測時における黒潮の離岸距離は表1のとおり。今回の結果は、茨城県水産試験場が実施した観測結果も加えている。

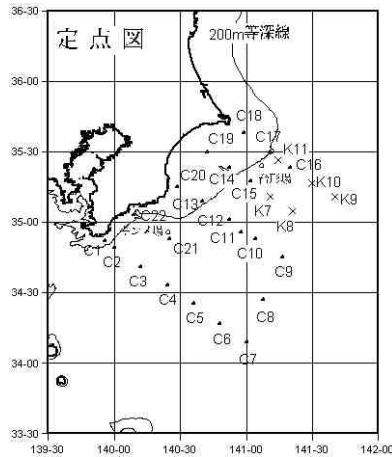


図1 定点位置

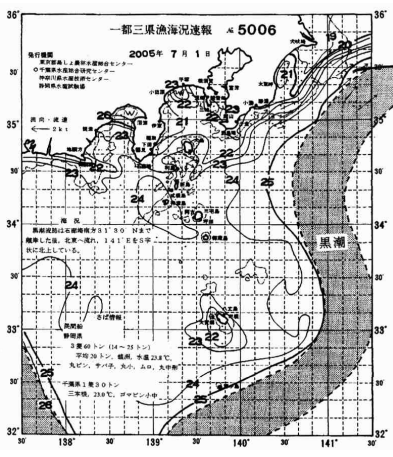


図2 7月1日の一都三県漁海況速報

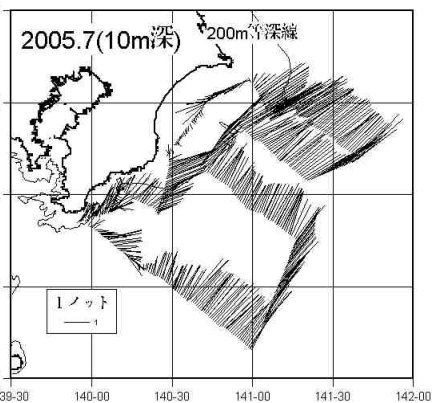


図3 流況(水深10m)

表1 房総沖の黒潮離岸距離(2005年7月)

基点・方向	距離(マイル)	階級
野島崎・南東	60	やや離岸
太東岬・南東	55	—
犬吠崎・南東	40	平年並

*(数字)は海洋速報(海上保安庁海洋情報部)より

表2 水温の評価(2005年7月)

水深(m)	外房海域			銚子・九十九里海域		
	水温	平年偏差	評価	水温	平年偏差	評価
0	23.3	0.5	平年並	22.1	0.3	平年並
50	19.11	1.12	平年並	20.02	1.65	平年並
100	17.59	1.72	やや高め	16.41	0.99	平年並
200	13.96	1.42	やや高め	14.02	1.33	やや高め

*水温は各海域の評価点の平均値

流況(図2・3)

2ノット以上の流れは、野島崎南東方45マイル以上の沖合域、太東岬南東方と犬吠崎南東方20マイル以上の沖合域、太東岬南方15マイル付近にみられた。犬吠崎南方10マイル付近では南西方向に0.7ノット前後の流れがあった。

水温(表2,図4・5)

先月は外房海域では「やや低め」～「平年並」、銚子・九十九里海域では「平年並」であったが、今月は両海域ともに「平年並」～「やや高め」であった。500m深では5℃以下の水温が房総海域の大陸棚に沿うように差し込んでいる。

塩分(図4・5)

海面～200m深にかけて33.4～34.8であった。犬吠崎沖の観測点C18では海面～48m深まで34.0以下の低塩分であった。これは、降雨に伴う河川水の流入と親潮系水の南下による影響と想定される。500m深では34.0以下が常磐・鹿島灘海域から犬吠崎沖に差し込むように分布していた。

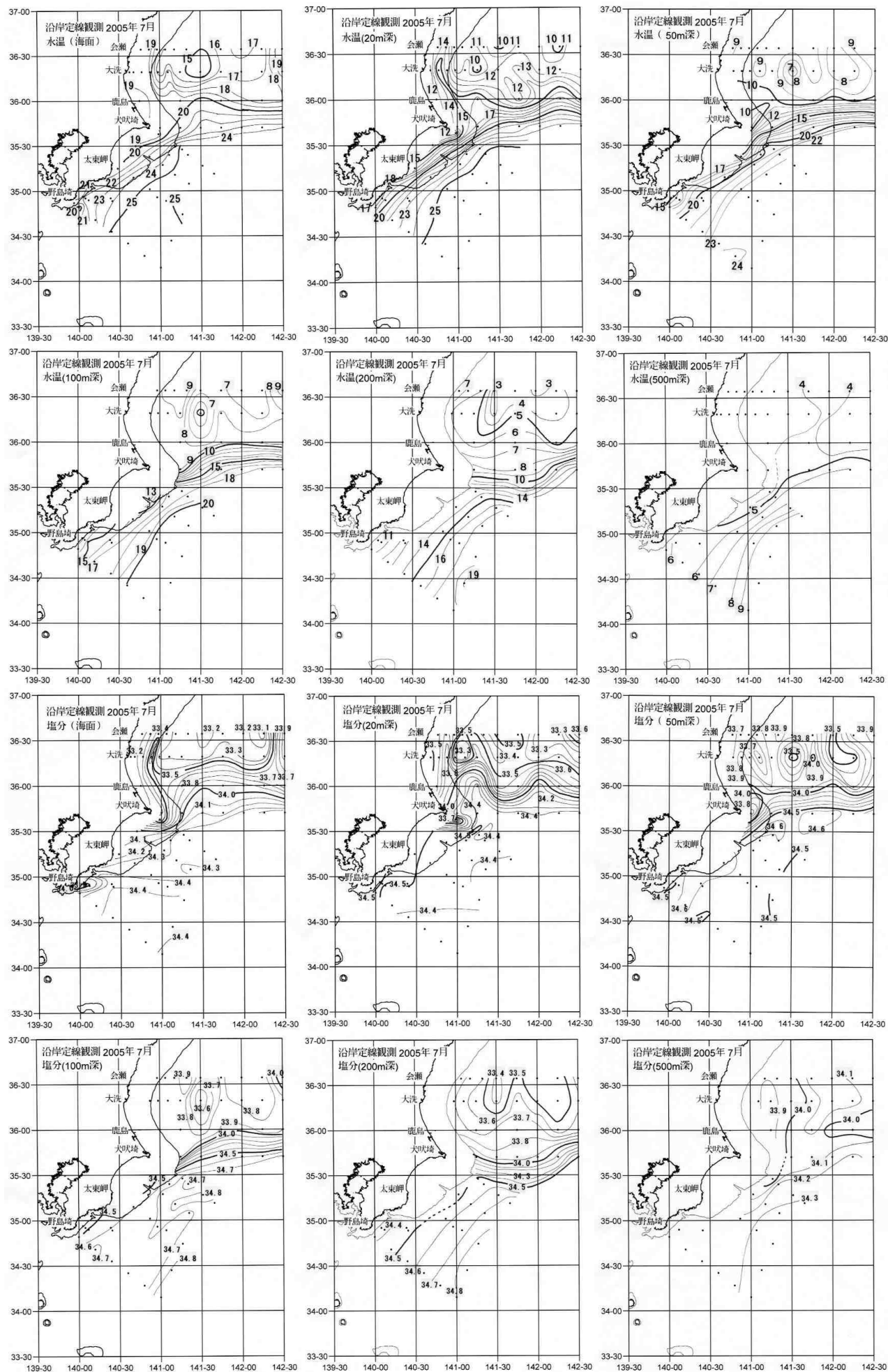


図4 水温と塩分の水平分布

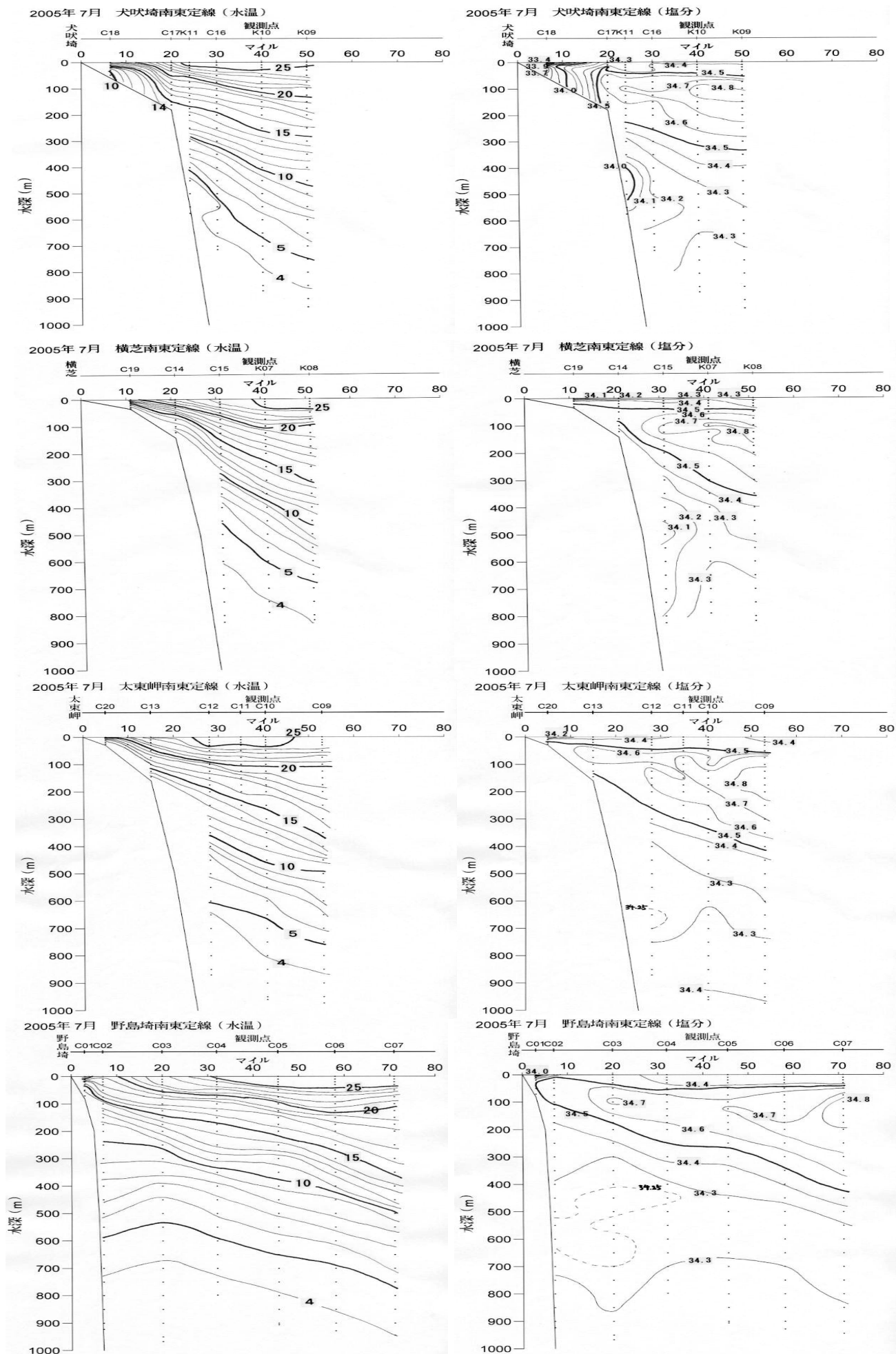


図5 水温と塩分の鉛直分布